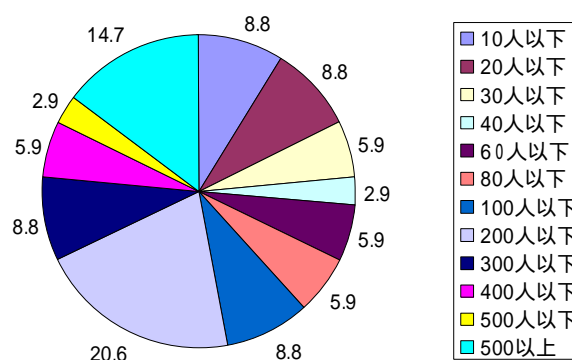


## 市民活動の傾向と課題

(文献及びインターネットによる調査：101 団体、聞きとりによる調査：19 団体)

### 1 活動規模 (文献等による調査：101 団体)

活動団体によっては、構成員だけでなく、参加者や会員数を記載するものもあり、団体規模自体を必ずしも正確に反映していないが、半分近くが 100 人以下の活動規模の団体で、30 人以下の比較的小規模な活動団体が約 25% を占めている。



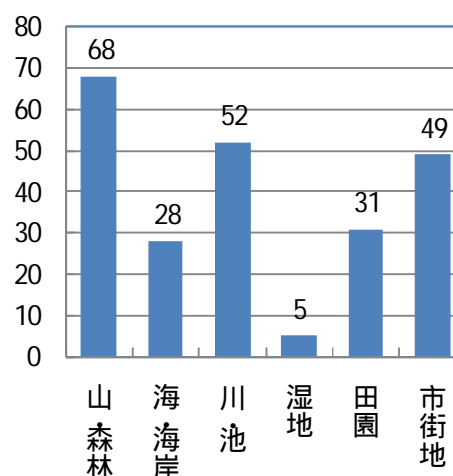
### 2 活動フィールド (文献等による調査：101 団体)

山・森林が 68 件と最も多く、半数以上の団体は山・森林での活動を主体としている。次いで川・池を活動場所とする団体が多く、山・森林と重複する団体も多くみられた。

一方で、市街地を活動の場とする団体も半数近くあり、市街地のみを活動の場とする団体の多くは、主な活動を情報発信とする団体が多かった。

また、田園を活動の場とする団体が 3 割あり、生物多様性を体感できる場所として、田園を対象にしていることが推察される。

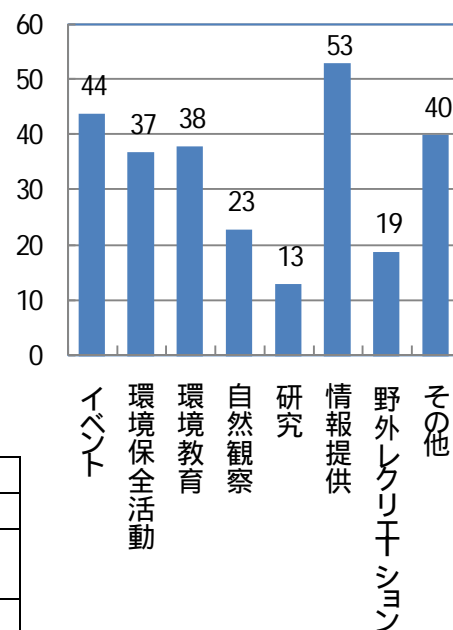
数は少ないが、湿地を活動の場としている団体もあり、これらの団体は湿地の研究や保護活動を行っているケースが多かった。



### 3 活動内容 (文献等による調査：101 団体)

情報発信が最も多く、半数以上の団体が、HP や会報等による情報発信を重視していることが伺われる。次いで、イベントの実施、その他、環境教育、環境保全活動と続いた。その他は人材教育や資格試験の実施等で、団体の重要な資金源のひとつとなっている。環境教育と環境保全活動は、兼ねて行われることもあり、重複して実施している団体が多かった。

一方、自然観察や研究を主体とする団体は、ほかの活動と重複することが少なかった。野外レクリエーションは 19 団体が実施しており、NPO 法人のなかには、本分野を主業務として位置づけているものもみられた。



#### 【活動内容の詳細】

イベント	シンポジウム、講演会等
環境保全活動	間伐作業、ビオトープ造成、植物保全活動等
環境教育	構成員が指導する野外活動による動植物観察、自然体験教室等
自然観察	団体構成員による野鳥、植物観察等
研究	研究目的の調査等
情報提供	HP による活動内容の PR、普及啓発活動等
野外レクリエーション	遊びを目的としたエコツアー等
その他	検定、研修の事務局等

#### 4 各団体の活動上の課題（聞き取による調査：19 団体）

各活動団体が持つ現在の課題について、19 団体から聞き取り調査を行った。19 団体の活動内容及び活動場所の傾向は 101 団体の集計結果に近い。

##### 【活動上の課題】

資金不足、人材不足、参加者減少を課題とする団体が多く、活動の継続や発展が必ずしもうまくいっていないことがうかがえる。

このうち、もっとも多く挙げられた課題は資金不足であり、会員の減少や収益の伸び悩みからくる運営費への圧力が大きいものと推察される。また、参加者減少と人材不足は同数回答であり、一部には、収益不足のため必要な人材や資材を調達できないと回答する団体もあった。

このほか、PR 不足をあげる団体もみられた。

##### 【行政への要望】

行政に対して、情報管理や、生物多様性の保全活動に係る方針を示してほしいという要望もみられた。

具体的には、生き物関連の窓口の設置や、公園管理への参画の門戸拡大、小さな団体への活動支援、現在がんばっている団体への理解など活動団体の要望を集約し行政が把握することを希望するものもあった。

